

# ニューアプローチ中級日本語 基礎編 練習帳

## 教師用引き

(2004年7月1日)

### 第1課

A

4. 各問題の内容に合わせて、「何」「だれ」「どこ」「いつ」を補う。

B

#### 問題

本冊では、比較の文型・表現として、「 $A > B$ 」「 $A < B$ 」を学ぶが、「 $A = B$  ( $A = B$ )」も復習しておく。

練習問題では「～と同じくらい です」になっているが、文脈によっては、「～と(だいたい)同じくらいです」という場合もある。主語に合わせて、自由に形容詞を選んで文を作るが、練習のために、できるだけ異なる形容詞を用いて作文するように指導する。

#### 問題

2. パズルのような問題。答えは(1)～(3)と(5)を読めば分かる。(4)は順番を確認するための文。

(2)  $C > B$

(3)  $D > C > B$

(5)  $D > C > E > B$

#### 問題

本文10行目～11行目「もしそれが青だったら、きっと食欲がなくなるでしょう」を踏まえた問題。本文では、「～でしょう」が断定留保(推量)の用法になっているが、この練習問題では、対話文を想定して、「～でしょう」が理由を述べる文についている。したがって、ここでは、単に断定留保というよりも、相手に対して「確認する」という用法になっている。その場合には、読み方(イントネーション)も異なるので、読ませる場合は注意が必要。

### 第2課

A

6. 2番目の例に示されているように、述部が名詞の場合には、「こと」を入れると冗長になる場合があるので、その場合は省く。一般的に、主題と述部が同じ単語を持つ場合には冗長になる。例えば、問題(6)、問題(10)は「デー」と「日」で単語は異なるが、「こと」がないほうが落ち着くので「こと」が省かれている。

B

#### 問題

3. (2)と(3)の一部は読み方を二つ書くようになっているが、どちらを上段に書くかは次の資料を参考。出典『NHKことばのハンドブック』(NHK放送分科研究所編)の「数字の発音・用例集」(303頁～) 「何」については掲載なし

匹：いっぴき にひき さんびき よんひき ろっぴき はちひき [なんびき]

ろくひき はっぴき

羽：いちわ にわ さんば よんわ ろっば はちわ [なんば]

さんわ よんば ろくわ はっば [なんわ]

#### 問題

Aは様態(推量)の「よう」

Bは比況の「よう」

呼応する副詞だけでなく、文の意味を考えて区別できるようにする。

(1)「きのう」

(2)「眼鏡をかけると」

- (3)「かなり」
- (4)「初めて見ました」
- (5)「知っているのに」
- (6)「自分のこと」
- (7)「～から、戻りましょう」

#### 問題

本文の3行目から4行目の「日本ではじゃんけんできめるのが普通です」、そして、最後の段落の2つめの文「握りこぶしから親指だけを出すのが・・・」を踏まえた問題。

文を倒置する練習。「～は・・・」「・・・(の)が～」

- ・例1と(1)～(3)はよく使う文型として、「～のが普通ですが、・・・」を学習。
- ・例2と(4)～(6)は、同じ内容を、異なる二つの文型で言い表すことができることを学習。
- ・題目のある文「～は・・・」が、倒置することで、「・・・が～」となる点に注意。  
これは、「旧情報」を先に出し、述部で「新情報」を出すパターン(「～は・・・」)と「新情報」を先に出し、述部で「旧情報」を出すパターン(「～が・・・」)の言い換え練習になっている。
- ・例2と(4)～(6)は、言い換えとして、「・・・は～」も可能だが、そうすると、元の文がもつ意味(新しい情報の提示)と異なる。

### 第3課

A

B

#### 問題

本文の最後の文「どれくらい安ければ、不便でもかまわないと考えるか、それが問題です」を踏まえた練習問題。

「～たら」「～ても」は初級で学習しているが、それが二つ入った文を作る練習。

二つ入った文の意味が理解しやすいように、練習問題では、「たら」「ても」をそれぞれ単独で使う文の練習も入れてある。条件の表現が二つ入るものは、「たら」「ても」だけでなく、「ば」「ても」「なら」「ても」もあるので、必要ならそのような文型でも練習する。

また、条件の表現の組み合わせも練習問題で示してあるのは1つのパターンだけなので、異なるパターンを作って練習させても良い。

例：「～ても～たら・・・ますか」「～ても～たら・・・ませんか」など。

### 第4課

A

2. 丁寧体の場合は、「～ますけれど」「～ですけれど」と書くように指示されているが、実際には、丁寧すぎる印象を与える場合もある。「～けれども」の場合は、明らかに不自然であるが、「～けれど」の場合は、文末が丁寧体なら、前件は普通体でも、全体で丁寧体になる、という指導も必要。練習問題の作文のほうでは、そのような答え方も可とするのが良い。

B

#### 問題

練習問題では、「使役受身文」と「使役+てもらう」の対比の練習だが、必要に応じて、「使役構文」と「受益構文」の対比の練習をしても良い。

例)

「身内の者」に～させる：弟に写真を撮らせる。

「外の者」に～てもらう：田中さんに写真を撮ってもらう。

#### 問題

1. 「例えば」も2. 「確かに・・・。でも・・・」も談話の流れをとらえるのに重要なマーカーとなる語句である。また、自分の意見を述べるときや作文を書くときにも使えるようになったほうが良いので、ここでしっかり練習させる。

3. 初級では、「～でしょう/だろう」「～かもしれない」は学習するが、「ん」「の」が入った文型を取り出して練習することは意外と少ない。なぜ「ん」や「の」が入るのかを理解させ、練習する必要がある。対話の中で、「ん」や「の」が理由説明になっている点に注目させ、「～んです」や「～のです」のように断定する文型にならず、推量の文型になっていることを理解させる。

## 第5課

A

4. 新出語として「結局」が出ているが、「～ことになった」を学習する場合、この副詞と一緒に使うことも多く、ここで学習するのが望ましい。ニューアプローチでは、完成編の第6課の文型・表現で扱っているが、先にここで語彙として導入しておく。

B

### 問題

- (1) この文は「テストを実施する側＝学校が決めたこと」について述べていると解釈されるので、「～ことになっている」を使う。
- (2) この文は、通常「私」について述べていると考えられ、しかも、「～し～から」で理由を示し、後に意志表現が続く形になっているので、「～ことにした」を使う。  
ただし、「私」ではなく、「みんな」が相談して決めたという解釈をするなら、「～ことになった」も可能。
- (3) 当然の帰結について述べている文なので「～ことになる」を使う。
- (4) 慣用的に、結婚することを報告する場合は、「～ことになった」を使うが、もちろん、二人の「意志」を全面に出す場合には、「～ことにした」も使われる。
- (5) 状況としては、「みんなで相談する」なので、結果を報告するという意味で「～ことになった」が自然だが、みんなの「意志」を全面に出す場合には、「～ことにした」も使われる。
- (6) 当然の帰結について述べている文なので「～ことになる」を使うが、規則としてそう決まっているという意味なら「～ことになっている」も使える。
- (7) 「～ために」という表現があるので、話し手の意志が表れる「～ことにしている」を使う。
- (8) 「～ませんか」という形式になっているので、「～ことにする」のみ可能。

### 問題

本文の最後の段落の1行目「5千年もたつと・・・」を踏まえた問題。

この問題では、「しか」(少ないという話し手の判断)と対比させて学習する。「も」には、「1」と一緒に「1人も来なかった」のような否定と呼応する文型もあるので、必要に応じて復習しておくこと。

## 第6課

A

B

### 問題

復習する文型は

- ・「～タことがある」
- ・「～タことはない」
- ・「～ルことがある」
- ・「～ナイことがある」

に加えて、

- ・「～ルことはない」

も練習する。

これは、本文の5行目「そんなに眠くなることはないかもしれない」で使われている「こと」である。

これは、単に「～しない」と言っても意味は同じになるが、「こと」をつけることによって、その動作・出来事を取り立てて、強調する働きがある。この練習問題では、(6)がそれにあたる。

### 問題

3. この問題は、「に」が必要か不要かを問う問題だが、不要な場合でも、「は」を入れるほうが自然

になる場合がある。

#### 問題

本文の第3段落の4行目「周りの車との距離を～」を踏まえた問題。

「助詞+の+名詞」の文型は、動詞と格助詞の関係が基本になっているので、動詞を想定することで、理解がしやすくなる。

「日本で勉強する」 「日本での勉強・・・」

「山田さんと付き合う」 「山田さんとの付き合いは・・・」

「山田さんから手紙が来る」 「山田さんからの手紙・・・」

「ヲ格」は「～をの」とはならず「～の」となるが、この問題では扱っていない。

ただし、文型によっては、元の動詞が想定しにくいものがあるので注意が必要。

「新宿まで行ける(?)定期券(を買う)」 「新宿までの定期券」

「周りの車と距離をとる(?)」 「周りの車との距離」(本文より)

「これからどうするかという(?)こと」 「これからのこと」(問題9)

そして、助詞の「に」は「にの」でなく、「への」となることも重要な学習項目である。

(問題6, 10)

#### 第7課

A

7. 前に来る動詞の形が「ル形」か「タ形」かで意味が異なるので、作文の時には注意が必要。ただし、練習問題では、「タ形」が来るべきものは、最初から「タ形」で動詞を提出している。もし、必要ならどちらの形が適当かを考えさせる練習問題を補充するほうが良い。

B

#### 問題

5. 「～以上」「～以下」は正確には、「～」の数値を含むのだが、実際の会話では、文脈に依存している部分が多く、「～」を含まずに解釈されることも少なくない。問題(8)では、「それ以下」という表現が使われているが、これは、それぞれ、「0.2以下」「0.6以下」のことを意味している。

#### 問題

本文の5行目「もう破られそうもないと～」を踏まえた問題。

「もう」の用法は次のものが既習(『みんなの日本語』で学習していると想定)

- ・もう一度
- ・もう一枚(などの助数詞)
- ・もう少し
- ・もうすぐ
- ・もう～です: もう3時です
- ・もう～ました: もう食べました

『ニューアプローチ基礎編』では、以下のような表現、文型が登場する。

- ・L. 1 本文  
「一つは・・・、もう一つは・・・」
- ・L. 3 単語の意味の確認  
「もうおなかがいっぱいです」  
「もうやめようと思っている」(=もうこれ以上～ない)
- ・L. 3 文型(8)の例文  
「それはもう30年前のことですが、・・・」(=もう30年がたった)
- ・L. 4 練習問題(3)  
「もう大人ですから心配は要りません」
- ・L. 6 文型(12)例文  
「あの人もう3時間も電話で話し続けていますよ」(=もう3時間です)
- ・L. 7 本文

- 「もう破られそうもないと思っていた・・・」
- ・ L . 9 文型 ( 3 ) 例文  
「約束があるので、もう行かなければいけません」( = もう行く時間です )
  - ・ 長文 2 本文  
「～と、それはもう異常なのだ」
  - ・ L . 17 その他の文型 ( 3 ) - 4 ) 例文  
「もう 5 人前くらい食べているよ」( = もう 5 人前です )
- これらを踏まえて、例として示した 4 つの文型を復習しつつ学習する。

#### 問題

- 1 . 本文の第 3 段落にある「出来上がったものを見ると～」「飲んだ牛乳を～」を踏まえた問題。  
アスペクトをあらわす「～た」の問題を中心に、伝聞の「そう」と様態の「そう」の接続形を問う問題。第 6 課では、「～ル時」と「～タ時」の対立を学習したが、ここでは連体修飾節に現れる「～ル + 名詞」と「～タ + 名詞」を練習する。
- 2 . 本文の第 3 段落の最後「だれがこの世界記録に挑戦してみようと思うだろうか」を踏まえた問題。  
いわゆる反語として解釈される文型の問題。

#### 第 8 課

A

B

#### 問題

本文の第 3 段落の最後の文「～人にごちそうするという約束をしたのだが～」を踏まえた問題。  
本文では連体修飾節として「～という + 名詞」で提示されているが、この問題では、引用の「と」が使われる動詞のバリエーションを学習することが目的。  
初級 (『みんなの日本語』) では以下の動詞を学習している。

- ・ ～と思う
- ・ ～と言う
- ・ ～と書いてある
- ・ ～と読む
- ・ ～と伝える

ニューアプローチ基礎編では、以下の動詞が登場する。

#### 長文 1 本文

- ・ ～たと分かる
- L . 9 本文
- ・ 「～ろう！」とやる気を出す
- L . 12 文型・表現
- ・ ～と呼ぶ
- L . 19 本文
- ・ 「～と怒られる」

#### 第 9 課

A

B

#### 問題

- ( A ) は原因
- ( B ) は「～によって違う / 異なる」という意味で使われる用法
- ( C ) は伝聞情報のソース
- ( D ) は受け身文の動作主

#### 問題

本文の6行目「初めてのものに対して、それが～」を踏まえた問題。  
間違えることが多い「～について」と「～に対して」の練習問題。  
それと同時に、使われる「形」にも注意して答えるようになっている。

## 第10課

A

### 8.(3)と(7)の動詞の形について

一般的な現象(何をするとどうなるか)について述べる場合には、「～ルだけで、～スル」の文型で良いが、過去の出来事(何をしたらどうなったか)について述べる場合には、「～タだけで、～シタ」となる。また、前件と後件の意味のつながりを考えて、後件(=主節)が現在テンスであっても、前件が<相対テンス>で「～タだけで」となる場合もある。(3)と(7)はその例である。

B

### 問題

本文の第2段落の最後「～と結びつけるのは考えすぎではないか～」を踏まえた問題。  
初級(『みんなの日本語』)では、動詞も形容詞も「～すぎる」「～すぎた」だけを学習している場合が多いが、実際には、「～すぎだ」の形もよく使われる。その文法の違いと使われる場面を理解させて、使い分けができるように指導する。

#### 1. は文法に注目した問題

「すぎる」は動詞、「すぎ(だ)」は名詞なので、前に動詞が来る場合には、「～を～すぎる」「～の～すぎ」のように、助詞が異なることを学習する。

#### 2. は用法に注目した問題。

何かをしすぎている(状態の)人に対して「注意する」「コメントする」という場面では、「～すぎますよ」とは言わず、「～すぎですよ」と使うことを学習する。特に、<現場=その人がそこで何かしすぎている>で注意する際には、「～しすぎですよ」と使うことはしっかり学習させておきたい。

### 問題

本文の第3段落の「どちらも自分の力ではどうしようもないという～」を踏まえた問題。  
この練習問題では、「名詞+でも～可能の否定形/否定的な意味をもつ述語」の文型を練習するが、レベルに応じて、「動詞(ふつう形)+のでは」という文型を加えて練習しても良い。  
「そんなに高く積んだのでは、持って行けない」のような文や、さらには、口語で「そんなに高く積んだんじゃ、持って行けないよ」のような文がある。

## 第11課

A

B

### 問題

第9課で学習した「～ルものだ」「～ナイものだ」とこの課で学習した「～タものだ」の復習を兼ねた問題。

### 問題

本冊の文型例文では、「名詞+ほど～」のみ扱っているが、この練習問題では「動詞+ことほど」も入れている。本冊の練習問題にも入っている。

### 問題

1. 本文の2行目「将来を決めるような重大な選択からちょっとした選択まで様々だ」を踏まえた問題。  
「～から～まで」が単に範囲を指定するのではなく、その範囲の広さを強調するために使われる場合。

2. 本文の最後「こんなやり方ですべてうまくいったらいいのだが」を踏まえた問題。

いわゆる願望・希望を表す場合に使われる条件構文を学習する。

第3者に関することについての願望では、「～といいですね」が使われることは、「会話の文型・

表現 2」でも学習している(問題の例 1)。ここでは、さらに反実仮想の構文を学習する。(問題例 2～4) 反実仮想になるかどうかは文型だけでなく、使われる文脈にも依存することに注意。なお、反実仮想については、L. 14で「～たら～ていた」の構文を学習する。

## 第 12 課

A

B

### 問題

(3) 連体修飾節の「～タ+名詞」について

解答例では、「あっさりしているもの」と「あっさりしたもの」の二つが書かれているが、状態を表す「～ている」が連体修飾の際に、「～タ+名詞」になることについては、本冊では次のように扱っている。

第 16 課の本文での使用例を踏まえて、この課でしっかりと学習してほしい。また練習帳のでもそれに関連する問題が出ている。

ただし、それ以前にも、次の課で出てきているので、クラスのレベルに応じてどこで練習するか決めるのが望ましい。「～タ+名詞」が出てくる箇所は以下のとおり。

- ・長文読解練習<1> 「そんな鼻やあごの形をした人なんて～」
- ・第 14 課本文 「にやにやした顔になってしまう」  
「～と似た効果がある」
- ・第 16 課本文 「じめじめした日」  
「晴れた日」  
「湿った布団」

## 第 13 課

A

B

### 問題

この課では、「動詞+ほどではない」を学習するが、初級も含め、これまでの学習した「ほど」の用法をまとめるための練習問題。

- ・「～は～ほど～ない」
- ・「～ば～ほど・・・」
- ・「思っていた/期待していたほど～ない」
- ・「～ほど・・・名詞はない」
- ・「動詞+ほど・・・」「～て、動詞+ほどだ」

### 問題

(5) 「～てくる」と「～ていく」の使い分けについて

通常話し手の基準は<現在>におかれるため、「今まで～てきた」「これから～いく」となる。

本冊の文型はこの原則通りとなっている。

(5) も文全体を見ると、この原則どおりに、「今まで(～てくるにしたがって)～てきた。これからも～いく」となるが、基準点の取り方によっては、「いく」を使うことも可能。

現象や出来事を客観的(=第三者の立場で現象や出来事について)に述べる場合、視点を変化の開始点に持ってくることもできるし、変化の結果の側に置くこともできるので、二つの表現が可能になる。クラスのレベルに応じて、このような視点の取り方によって二つの表現が可能になることを指導する必要がある。

例) AとBの変化を表すグラフを見ながら

「Aが増えると、Bが増えていきます」(基準=変化の開始点)

「Aが増えると、Bが増えてきます」(基準=変化の結果の側)

例) 過去の出来事について、

「Aが増えるにつれて、Bも増えていきます/増えていきました」(基準=変化の開始点)

「Aが増えるにつれて、Bも増えてきます / 増えてきました」(基準 = 変化の結果の側)

このような視点の取り方を考慮すると、問題(5)は、“前半の文だけ見れば”「車が増えていくにつれて、交通事故も多くなっていった」も可能。ただし、“全体をみると、「いままで」と「これから」という構成になっていて、<現在>を基準にしていることがわかるので、「車が増えてくるにつれて、交通事故も多くなってきた。これからも、たぶん減っていくことはないだろう」となるのが良いと考える。

#### 問題

本文の第2段落「もし夢が実現していたら、私はパン屋さんになっていたのだ」を踏まえた問題。

11課に続いて、反実仮想の構文を学習する。現実はどうだったのかを、確定条件文「~ので~た」で言い換える問題。

反実仮想の構文としては、ここでは、以下の3つのパターンを学習する。

- (1)(4)(5)  
~たら、~なかった(だろう)
- (2) ~たら、~ていた
- (3) ~たら、~たのに

#### 第14課

A

B

#### 問題

本文では、第1段落に「面白くないのに笑顔を~」、最後の段落に、「たとえ楽しいことがなくても、~」が出てくる。

逆接条件の「ても」と「のに」の問題。呼応する副詞に注目するとともに、既定条件にのみ使う「のに」の用法、そして話し手の心的態度(残念などの気持ち)が入っているかどうか、また、後件に話者自身の意志表現が入るかどうかを確認する。

#### 問題

この課で学習する「また」は、ある程度内容があり、文脈が明示されていないと、練習ができないため、Aの練習問題には入れず、ここで扱っている。

#### 問題

本文の第2段落の最初「こんな実験をしたらしい」を踏まえた問題。

指示詞の使い方として、「こう」「こんな」「いういう」の「コ系」は、後に出てくるものを指すことがあることを学習する。それとあわせて、「ソ系」「ア系」のものを復習する。二人が情報を共有していると(文脈から)推測できる場合は、切り出しの文であっても「ア系」が使われることを確認。

#### 第15課

A

B

#### 問題

文型・表現の(3) - 1) 2)にある文型の練習問題。

- ・聞いた情報を確認する文型
  - 「~と聞いたんですが」「~と聞いているんですが」
  - (2)「さっき~と聞いたんですが」
- ・聞いていた情報が実際と同じだった / 違ったことを述べる文型
  - 「~と聞いていたんですが」
  - (1): 実際と同じだった場合
  - (3): 実際と違った(期待はずれだった)場合



(4):「～とは聞いていたが」実際と違った場合

(5)はこれとは別に、「とても楽しみです」につながる形として「と聞いている」を選ぶ。

#### 問題

本文の冒頭「～が、いかがお過ごしですか」を踏まえた問題。

本冊では、会話の文型・表現で、待遇表現として文型を提示している以外は、敬語を取り上げて学習する課がないので、必要に応じて教材を準備して学習させることが望ましい。

この問題では、日常生活でよく使われる「お～です」「お～の+名詞」の敬語表現を取り上げている。

### 第16課

A

B

#### 問題

1. 比況の「(まるで)～よう」と典型を表す「～らしい」の練習。

呼応する副詞(「まるで」)がなくても、文の内容からどちらが適当か判断できるようにする。

- (1)「病気らしい病気」
- (2)「8月に入って」
- (3)「娘さん」
- (4)「隣りの家の一郎君」「私の兄」
- (5)「いつもの～らしくない」

2. 推量(伝聞)の「～らしい」と典型の「～らしい」の練習。

呼応する副詞(「どうも」「いかにも」)に注目するだけでなく、文の内容からどちらに用法になるか判断できるようにする。

- (1)「あの方が・・・」
- (2)「先生らしくない先生」
- (3)「雨らしい雨」
- (4)「どうも」
- (5)「～書いたのは、・・・」
- (6)「いかにも」
- (7)「・・・なんて、・・・」
- (8)「・・・によると、・・・」

#### 問題

2. 連体修飾節の「～タ+名詞」については、第12課の解説を参照のこと。

#### 問題

本文の最後「～水着もあまり売れないらしい」を踏まえた問題。

いわゆる自発の概念を表す表現についての問題。

この練習問題では、「よく～」「簡単に～」「すぐ～」という表現で、そのものの属性を表す表現(動詞)を扱っている。それとあわせて、自動詞と他動詞、他動詞の受身形なども復習する。

(普通は自他動詞のペアとして学習する動詞)

- 「割る」 「～は簡単に/すぐ割れる」
- 「解く」 「～は簡単に/すぐ解ける」
- 「折る」 「～は簡単に/すぐ折れる」

(普通は他動詞の可能形として学習する動詞)

- 「売る」 「～はよく売れる」
- 「切る」 「～はよく切れる」
- 「取る」 「～は簡単に/よく取れる」
- 「脱ぐ」 「～は簡単に/すぐ脱げる」

「書く」「～はよく書ける／全く書けない」

## 第 17 課

A

4. 「～はずがない」の動詞の形について

「～はずがない」は「～」を否定する文法形式だが、＜論理的にそんなことがない＞と否定する形式のため、対象となる出来事が実際に起きたことであっても、過去形を使わずに現在形を使うのが普通。(6)の解答例にあるとおり、実際に「入院した」と聞いても、「入院するはずがない」という形で使われるのが普通である。

8. 「～ものだ」の動詞の形について

「よく～ものだ」は「～」について、感嘆の気持ちを表す文法形式だが、過去の出来事(一回の個別の事例)であっても、それを＜一般化＞させ、「～ルものだ」と現在形を使うことのほうが多い。過去形を使うことは間違いではないが、感嘆の気持ちを表す場合には、このようにル形を使うことを指導したほうが良い。

B

問題

文型・表現の(1) - 5)で「もう少しで～ところだった」を学習することを踏まえて、「ところ」を使う文型の復習する。

- ・「ルところだ」
- ・「タところだ」
- ・「テイルところだ」
- ・「ルところだった」(文型・表現より)

述部はいずれも「だ」「だった」のみを扱っているが、クラスのレベルに応じて、「～ところで」「～ところへ/に」「～ところを」などを導入しても良い。

問題

ここでは、様態または比況をあらわす「よう」「そう」の復習とまとめになっているが、(6)の「よう」だけは、「～ようになっている」(=仕組み)の用法の復習となっている。

問題

文型・表現の(3)の4～5の例文の発展として、「～タはずなんですけど」を学習する。ちなみに「つもり」を使った「～タつもりだ/で～」は完成編の第10課で扱う。

## 第 18 課

A

B

問題

本文の3～4行目「やっぱりおいしいから行列ができるんだよね」を踏まえた問題。

「～から…」の部分で示される内容を「の」でくくる文型を練習する。

日本語では次のような文は不自然である。

? 「お金がないから、買いませんか」

普通は次のような文になる。

「お金がないから、買わないのですか」

また、上の質問に、いいえで答える場合、「お金がないから買わないではありません」のように「の」で全体をくくるが必要になる。「の」を使うことなく、同じ意味で文を作ると不自然になる。このように、「の」でくくる文型は重要である。

この問題では、基本的な文型として、【～から…】の部分を取りたてて、肯定したり否定したりする練習をする。基本練習のため、やや回りくどい言い方になっているが、基本がおさえられたら、より自然なパターンで練習させても良い。

## 第 19 課

A

B

問題

この課の文型「さぞ～ことだろう」を踏まえて、「こと」を使う文型の復習。

- ・「～タことがある」初級
- ・「～の/ということだ」(定義)第2課
- ・「～ことにする/した」(決定)第3課
- ・「～ということだ/とのことだ」(伝聞)第5課
- ・「～ことになる/なった」(結果報告)第5課
- ・「～ことになっている」第5課
- ・「～ルことがある」第6課
- ・「～ルことはない」(＝～ない)第6課(補充)
- ・「～ルことだ」(忠告)第16課
- ・「～ことだろう」第19課

注意

この問題では、未習の用法も含まれている。もし、どこかの課で学習していればそのまま問題をやっても良いが、未習の場合は、次の2題は抜かしてもよい。

(7)「心配することはない」

- ・ 不必要の「～ことはない」は、完成編の第1課で学習する。

(10)「貸せないことはない」

- ・ 二重否定の「～ことはない」は、完成編の第8課で学習する。

問題

本文の1行目「～はよく素朴な疑問で私を悩ませる」、第二段落の「感心する」などを踏まえて、思考、感情に関する動詞とその形を学習する。同じ内容について、自動詞や他動詞、使役形や使役受身形で言い表されることを学習する。

全ての形が同じように使えるわけではなく、一緒に使われる助詞の違いなど文法のほかに、ニュアンスも異なる。

この問題で扱っている動詞とその形については以下を参照のこと。

- ・「人は～に/で悩む」【自動詞】  
「～が人を悩ませる」【使役形(他動詞のように使われる)】  
/ (悩ます)【他動詞】  
「人は、～に悩まされる」【使役受身形(他動詞の受身形)】  
(悩ませられる)
- ・「人は～に驚く」【自動詞】  
「～が人を驚かせる」【使役形(他動詞のように使われる)】  
/ (驚かす)【他動詞】  
「人は～に驚かされる」【使役受身形(他動詞の受身形)】  
(驚かせられる)
- ・「人は～に感心する」【自動詞】  
「～は人を感心させる」【使役形(他動詞のように使われる)】  
「人は～に感心させられる」【使役受身形】
- ・「人は～を見て/聞いて(いろいろなことを)考える」【他動詞】  
「～は人に(いろいろなことを)考えさせる」【使役形】  
「人は～を見て/聞いて(いろいろなことを)考えさせられる」【使役受身形】
- ・「人は～を見て/聞いて(なるほど)納得する」【自動詞】  
「～は人を納得させる」【使役形(他動詞のように使われる)】  
「人は～を見て/聞いて(なるほど)納得させられる」【使役受身形】

- ・「人1は人2(のこと)を心配する」【他動詞】  
   「人2は人1を心配させる」【使役形】  
   「人1は人1に心配させられる」【使役受身形】
- ・「人1は人2のことで困る」【自動詞】  
   「人2は人1を困らせる」【使役形(他動詞のように使われる)】  
   (困らす)【他動詞】

問題(2)の答えについて

問題(2)はすべてが可能となる。それは省略されている部分を示すとわかりやすい。

- ・この作者の意見にはなるほどと【読者が】納得するものがある。
- ・この作者の意見にはなるほどと【読者が】納得させられるものがある。
- ・この作者の意見にはなるほどと【読者を】納得させるものがある。

## 第20課

A

B

### 問題

関連語の学習を踏まえて、複合動詞を復習する。

- (例)「振り向く」17課本文
- (1)「思いつく」3課本文
- (2)「割り込む」20課本文
- (3)「言い間違ふ」20課本文(「言い間違い」の形で出ている)
- (4)「引き受ける」19課例文
- (5)「待ち合わせる」6課練習問題「待ち合わせ(する)」
- (6)「乗り過ごす」20課例文
- (7)「話しかける」会話<3>例文
- (8)「飛び出す」10課練習問題
- (9)「助け合う」20課関連語
- (10)「結びつける」10課本文